

OLT Innovator, Hirano Logistics
新しい輸送の形を提案します。

2階建ベリー-貨物専用車両「プラスエイト」

+8 好評運行中!



- 2台以上の貨物を1台で運べ、顧客の輸送コストを削減
- 環境負荷も低減 (CO₂ 60% カット)
- LD3 コンテナ換算で14台を搭載、従来搭載数に比較してプラス8台
- 上段には96インチパレットを4枚搭載可能



KT 株式会社 平野ロジスティクス
Hirano Logistics Corporation



本社 078-994-0069 関東支店 0476-35-3600 東京営業所 03-6382-7768 東海支店 0538-42-9480
中部支店 0569-38-7208 関西支店 072-463-7455 神戸営業所 078-965-0918 福岡営業所 092-586-8915
<http://www.hirano-logistics.com>

SPACE 2018年2月号(第18巻) 航空貨物専門誌 発行所 和歌山県和歌山市 発行日 2018年2月5日発行 (毎月1回発行) 定価 1,000円(税別) ISSN 0382-4380

月刊 航空貨物専門誌

SPACE

2018 **2**
Vol.48, No.2(566)

The Japan Press, Ltd. TEL: 03-3404-5151 FAX: 03-3404-5152 www.japanpress.co.jp

定価 1,000円(税別)

特集 世界のEC市場を押し広げる主役たち

定価 1,000円(税別)
発行所 和歌山県和歌山市 発行日 2018年2月5日発行 (毎月1回発行) 定価 1,000円(税別) ISSN 0382-4380
電話 03-3404-5151 FAX 03-3404-5152 www.japanpress.co.jp



航空貨物業界これに注目 平野ロジスティクス
新型トレーラ「+1α」で輸送力アップ

最新ニュースをメルマガで配信
登録は本誌ウェブで! www.japanpress.co.jp
無料

平野ロジスティクス

新型トレーラ“+1α”で輸送力アップ

プラスワンアルファ

航空貨物の空港間保税運送を主要な事業とする平野ロジスティクスが、またまた画期的なセミトレーラ“+1α”を開発した。2013年に開発・導入した“+1”は、普通トラックと同様の高速

料金でコンテナを1台多く積めるスグレモノとして活躍しているが、新モデルの“+1α”は積載量が大幅に増えるほか、貨物の積み降ろしを格段に容易にする機能が備わっている。

半導体製造装置の輸送需要に対応して

平野ロジスティクス(以下平野ロジ)で、今回の“+1α”でも開発を担当し、車両製造の発注先であるオランダのメーカーECK社(本社:ユトレヒト)との調整に奔走したのは、益子研一・東日本担当営業部長 兼 関東支店長(写真)だ。

平野ロジとECK社は、これまでも本邦初のULD2段階積みセミトレーラ“+7”、“+8”の開発で協力した実績があり、規制基準が厳しい日本の道路交通法をパスして、高機能な輸送車両を開発するうえで、良きパートナーの関係にある。

益子部長は「既存の“+1”は積載重量が最大10トンだが、新型“+1α”では26トンを目指しています」と言う。

最大積載量は今後の車両検査で正式に決定するわけだが、積載量を増やすために“+1”では1本だった車軸を、“+1α”は3軸に増やすなどの手段を講じている。

積載量の拡大を目指す背景には、平野ロジが取り扱っている半導体製造装置の輸送需要の急増がある。現在、日本の航空輸出の状況は、まさにこの分野の輸送需要が支えているといえよう。

まずは新旧“+1”シリーズの規格を比較しておこう。

従来型“+1”:幅244cm×長さ1280cm×高さ250cm

新型“+1α”:幅244cm×長さ1465cm×高さ268.5~300cm

こうしてみると両モデルは幅は244cmで同じだが、“+1α”

の方が185cm長く、しかも18.5~50cm高くなっており、かなり大型化している。

こうしたサイズ増により、“+1α”では積載量を大幅に引き上げることを目指しているわけで、“+1α”の積載量は通常のトラックに換算すると、10トン車1台と4トン車1台を合わせた2台分に相当するという。

にも関わらず、積載貨物が軽い場合には、普通トラックの高速料金が適用される規格となっている。そこにあるのは、新型トレーラの開発による物流のメリットを荷主に提供しつつも、物流コストの負担をできる限り増やさないという、平野ロジのポリシーに他ならない。

側面と天井がすべて開いて荷役に便利

同社が“+1α”を開発した主な要因は、半導体製造装置の輸送需要に対応することにあるため、積載量を増やす以外にも、この新型トレーラにはこれまでにない、新たな機能が導入されている。

そのひとつが、トレーラの側面が大きく開いて、大型機械の荷役が容易にできることだ。側面の構造はターボリンシートと呼ばれる幌状のものが、カーテン式に横に開閉する仕組みとなっている(次ページの写真参照)。

日本に比べて道路を通行するトレーラの規制が緩やかな欧州では、長いトレーラでよく見かける側面構造だという。荷台が金属製の箱形で、背面のドアからだけしか貨物の積み降ろしができない従来のセミトレーラでは、大型機器の荷役に手間がかかって効率が悪い。そこで側面が全面的に開閉できるシステムを導入したわけである。

日本でもウイング・ドア構造で側面が開くトラックがある



(株)平野ロジスティクス Hirano Logistics Corporation

本社:〒651-2228 神戸市西区見津が丘3-1-6

設立:1997年(平成9年)、創業1937年(昭和12年)

代表者:田中英治・代表取締役

従業員:149名

事業内容:一般貨物自動車運送事業、第一種利用運送事業(自動車、

内航海運)、一般貸切旅客自動車運送事業、軽貨物運送事業、

一般労働者派遣事業、古物商

所有車両:133台(大型車94台、中型車27台、商用バン12台))

が、全長が長いトレーラではウイング・ドアは、重くなりすぎて強度が不足するため、とても使用に耐えられないのだ。

「このカーテン式のシステムは、欧州を走行しているトレーラでは普通に見られるが、日本では“+1α”が初めてといえるほど珍しいものです」と益子部長。

側面だけでなく天井部分もターボリンシートを使用して、スライド式に開く構造となっているという。

すなわち、側面も天井も開閉できるため、半導体製造装置のような大型・重量かつ精密な機械の積み降ろしがスムーズにできる。そのほか、背高貨物やAMDコンテナを積み込むことも可能だ。

平野ロジが画期的な新型トレーラの開発で、欧州のECK社をパートナーとしている理由は、日本にはまだ普及していない優れた欧州の方式を取り込んで、活用していくという狙いがあるためであろう。

新型車は3月に日本で正式デビュー

日本では通常、半導体製造装置の輸送がどのように行われているかという点、木枠で梱包した製造装置を平ボディ車のトラック荷台に積んで、シートをかけて運んでいる。ところが、“+1α”ならシートをかける必要がなくなるわけだ。

実はこのシートは40kgほどの重さがあり、その重いシートを通常は2枚かける。シートは重いため扱うのが大変で、貨物に掛けるにも技術と経験を要するという。

決して大きさでなく、シートを掛けるのは危険と隣り合わせで、ドライバーの負担も小さくない作業なのである。シート掛けが不要な“+1α”を使用することで、ドライバーの負担が軽減されるメリットは大きい。

そうした運転以外の力仕事の負担が軽減されれば、女性ドライバーが増えることにも結びつくだろう。ちなみに、同社では昼間限定ドライバーの採用枠を設け、女性ドライバーも積極的に採用している実績があるそうだ。

「“+1α”は九州などにある半導体製造装置の工場サイトから空港へ機械を輸送し、空港で貨物を降ろした後は、空港間のOLT輸送(保税輸送)に利用するといった輸送を組み合わせて、より効率的にトレーラを運用していく方針です」



側面がカーテン式に大きく開くようになっている



“+1”型セミトレーラ

と益子部長はいう。

ところで、“+1α”は企画から開発・製作までに、1年余りを費やしたという。同社はこれまでに、日本初となるULD2段階積みセミトレーラ“+7”や、その改良型である“+8”を開発した、イノベーションに積極的な企業だ。

欧米に比べて厳しい日本の道路交通法の基準のもとでも、より効率的で使い勝手が良いトレーラ機材を開発しようという情熱と、厳しい規制をクリアしていくアイデアが、新型トレーラの誕生を支えている。

これまでに積み重ねてきた多様な経験があればこそ、“+1α”は1年余の期間で、日本の輸送市場に登場することができるといえる。

本稿執筆の1月中旬の時点では、“+1α”の初号車は1月20日頃に横浜に到着する予定で、通関/車検/特殊車両通行許可申請などの手続きをへて、3月10日に日本で正式デビューする予定となっている。

平野ロジでは現在、“+1”を12台運行している。一方、“+1α”はまず3台が納車され、1か月の試験運用をしたうえで改善すべき点を修正し、年内にさらに7台の納車を受けて10台体制にする予定だ。

“+1α”は3mの背高貨物が輸送できるため、B747貨物機のアッパーデッキ用のAMDコンテナを積み込むこともできる。

「すでにフレイターキャリアやインテグレートタからも“+1α”に対する問い合わせがきています」と益子部長は、業界からの注目度の高さに、ビジネス拡大への手応えを早くも感じているようである。